

# AKI

いいなあ安芸

2024年 安芸市勢要覧

市制施行70周年記念





## 市長あいさつ Message



安芸市長  
横山 幾夫

安芸市では、昭和29（1954）年8月に市制を施行し、令和6（2024）年8月に市制施行70周年を迎えます。令和6年1月から新庁舎での業務開始、4月には安芸市立統合中学校（校名「安芸中学校」）が開校、四国8の字ネットワークの一部を構成する「南国安芸道路」整備が着実に進むなど大きな時代の転換期となっています。今日の私たちの暮らしは、先人の礎のもと生まれ、築かれたものであり、これまでまちづくりに取り組まれた多くの皆様に心より感謝申し上げます。

安芸市を一言で表すと、田舎過ぎない田舎で、「そこそこののが、心地がえい、安芸市」です。県都・高知市から東へ約40キロに位置し、南は土佐湾に面し、北は四国山地を背にする美しい自然に囲まれた県東部の中核都市であります。

本市は、全国最大級の施設園芸地帯として、ナスなどの環境保全型農業に取り組んでおり、ユズ、ちりめんじゃこの産地、明治時代の野良時計、土居廓中の武家屋敷群、三菱創業者岩崎彌太郎、2代目彌之助、3代目久彌の生誕地いわゆる三菱源流の地、そして書道・童謡・陶芸のまち、阪神タイガース・大学・高校野球のキャンプなど、歴史と文化の香るまち、スポーツキャンプのまちとして、全国に情報発信し安芸市の魅力アップに努めています。

周年テーマを「つながる、」とし、本市のこれまでの歩みを振り返り、今を喜び、未来に向かって持続的かつ発展的な一歩を踏み出す意志を込め、市勢要覧を全面的に改訂しました。あわせて、安芸市の良さが詰まった映像も作成いたしましたので、たくさんの方にご覧いただき、「いいなあ安芸」を感じ、より一層安芸市への愛着と誇りを持っていただけるきっかけとなれば幸いです。

結びに、70周年という節目を新たなスタートとし、新しい未来に向け、さらに力強く前進し、誰もが誇れる安芸市を目指すことをお約束し、市制70周年記念市勢要覧発行にあたってのごあいさつとさせていただきます。



## 目次 Contents

「つながる、」	02
AKI マップ	04
歴史と文化の香るまち	
岩崎彌太郎と商いの文化	06
偉人の足跡をたどる	08
歴史が彩るまちなみ	10
今も息づく書の心	12
伝統のものづくり	14
AKI イベントカレンダー	16
活力あふれる元気都市	
自然の恵みを生かす一次産業	18
スポーツキャンプのまちづくり	22
移住者インタビュー	24
広がり、つながる安芸市の輪	26
安芸市公式プロモーション動画	28
安心・未来のまちづくり	
安全・安心なまちへ	30
誰もが暮らしやすいまちへ	32
子育てにやさしいまちへ	34
子どもの未来が輝くまちへ	36
安芸市の未来座談会	38
安芸市の歩み	40



### 市章

ひらがなの「あ」と、カタカナの「キ」を配してかたちどったもので、翼は飛躍発展を、円は円満平和を表したものです。



#### 市の花 City Flower

ツツジ  
(1970年6月30日制定)



#### 市の鳥 City Bird

キセキレイ  
(1980年2月1日制定)



#### 市の木 City Tree

ヒノキ  
(1970年6月30日制定)



#### 市の魚 City Fish

アユ  
(1997年5月23日制定)

## 市民憲章

未来をになう、心豊かでたくましい子どもを育てましょう。  
歴史と伝統を守り、かおり高い文化のまちをつくりましょう。  
童謡の里にふさわしい自然豊かな環境を大切にしましょう。  
いたわりと、愛の手で福祉のまちを築きましょう。  
健康で働き、産業を盛んにし、活力のあるまちにしましょう。



「つながる、」

安芸市制施行70周年記念





海 山 川 豊 かな 自然  
 先 人 ち だ ち の 息 づ か い  
 こ ん な す ぐ そ ば に あ る  
 歴 史 と 文 化 が 香 る ま ち を  
 未 来 へ つ な ぐ 人 が い る  
 い い な あ 安 芸



# AKI MAP

そこそこなのが、心地いい、安芸市

## 安芸市ってこんな街です

人口は16,243人（令和2年国勢調査）で、高知県東部に位置しています。

平均気温は17.4℃ほどで、日照時間は年間2,000時間以上であり、また、降水量が多く、降雪はほとんどありません。

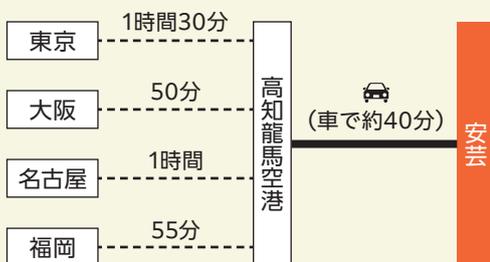
海・山・川の多様な自然環境に恵まれており、安芸川水系のおいしい水が毎日の健康の源で、四季折々の海の幸、山の幸が生活に潤いと豊かさをもたらしてくれます。

## 交通アクセス

### 鉄道をご利用の場合



### 飛行機をご利用の場合



いいねあ  
のPoint

## ほどよく便利な、ウルトラコンパクトシティ

安芸市の中心市街地は、徒歩20分圏内に「衣食住遊」がそろっています。土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線の線路を境に、南に商店や病院、飲食店があり、北には農作地帯が広がっています。

田舎過ぎず、ほどよく便利な「心地いい街」。そんなウルトラコンパクトシティなのです。



20分圏内に  
衣食住遊がそろっ  
エコタウン

## 2024年リニューアル



### 道の駅 大山

雄大な太平洋を望む道の駅です。お土産のほか、地元野菜を使ったタコスやふわふわ食感のケーキなど、安芸市の新しいグルメが楽しめます。飲食スペースからの眺めは抜群です。



## 2023年リニューアル



### 安芸駅ぢばさん市場

安芸駅構内に併設された物産店。新鮮な野菜や加工品、ちりめんじゃこなどの特産品やお土産、内原焼などを販売しています。

©やなせたかし



烏帽子ヶ森



大山岬



廓中ふるさと館



伊尾木洞



赤野休憩所



# 岩崎彌太郎と商いの文化

## 岩崎彌太郎生家

寛政7(1795)年に曾祖父が移築した家です。彌太郎はこの家に生まれ、32歳まで暮らしました。



## 大きな志と強い意志を胸に 江戸へ向かう

岩崎彌太郎は、天保5(1835)年、地下浪人<sup>じげろうにん</sup>だった父・彌次郎、母・美和の長男として、土佐国安芸郡井ノ口村一ノ宮に生まれました。

勉強熱心で幼少の頃から和漢の書に精通し、時の13代藩主山内豊熙<sup>やまうちとよてる</sup>に漢詩を献じ、書を講じるほどの秀才で「安芸の三神童」と呼ばれていました。その一方で、わんぱくでもあり、心優しい少年でもありました。

安政元(1854)年、自宅近くの妙見山の星神社に参拝し、扉に「吾れ志を得ずんば、再びこの山に登らず」と大書。大きな志と強い意志を胸に江戸に向かい、安積良齊<sup>あきかごんさい</sup>に入門しました。翌年、庄屋と酒席での喧嘩がもとで重傷を負わされた父親を心配し、帰郷します。彌太郎は庄屋を訴えましたが、聞き入れられず憤慨し、奉行所の壁に落書きをして投獄されます。安芸郡を追放された後、吉田東洋との出会いを機に飛躍の道を拓いていきます。



## 岩崎彌太郎像

生誕150年を記念して江戸川上公園に建立された銅像です。2015年に生家横に移設されました。



## 岩崎彌太郎

天保5(1835)年、土佐国安芸郡井ノ口村に生まれる。儒学や漢学に励み、24歳で半年間の長崎出張を経験。32歳で土佐藩開成館長崎商会の主任として輸出入の交渉を担当した。その後、三菱の起源となる「九十九(つくも)商会」を指揮し、海運業を発展させ「東洋の海上王」と呼ばれた。

# 土佐藩士から 東洋の海上王へ

吉田東洋の後を受け継いだ後藤象二郎の下で、彌太郎は次々に才覚を發揮します。長崎に設立した土佐商会で腕をふるった後、「九十九商会」を母体にして明治6（1873）年に「三菱商会」を設立。長崎で坂本龍馬から得た示唆により、海運業や軍事輸送で会社を發展させていきます。そして、幕末から続く諸外国の汽船会社などとの激しい戦いを制して上海航路を独占し、「東洋の海上王」と呼ばれるようになりました。

明治18（1885）年、疾風のごとく世界を駆け巡った異才、岩崎彌太郎は50年間の生涯に幕を閉じました。その熱い志は弟・彌之助にしっかりと引き継がれ、鉱山・造船・不動産・金融へと社業を拡大し、世界に名だたる現在の三菱グループへと發展していきました。



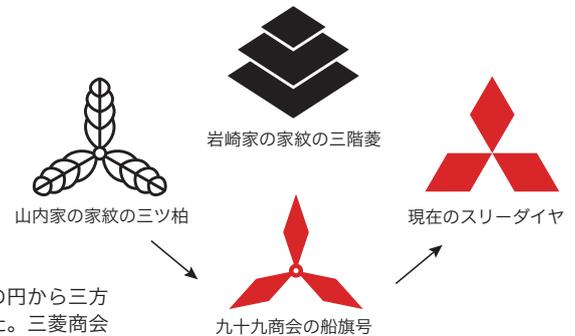
日本列島を模したといわれる庭石



鬼瓦にある「三階菱」



蔵の壁に残る三菱マーク



## 三菱マークの起源

初期九十九商会の船旗号は、中央の円から三方に菱形が長く伸びたデザインでした。三菱商会に改称後の彌太郎の手紙には、「三菱は▲なり」と書かれています。



彌太郎の訪れた場所 / 星神社

## 妙見山と星神社

彌太郎が江戸遊学に出かける際に立身出世を祈願した場所です。立身出世のパワースポットとなっています。



妙見山からの景色



## 安芸観光情報センター ～彌太郎ころざし社中～

2020年の三菱創業150周年を契機に全面リニューアル。全長約13mのVRシアターや、タッチパネル式の展示などで彌太郎の生涯を体感できます。

いいなあのPoint

## 安芸に息づく商いの文化

三菱を生んだ商いの文化は、今も安芸に息づいています。その一つが、毎年夏に開かれる「商い甲子園」。商いの神様と呼ばれた彌太郎の商人魂を高校生と一緒に学ぶことを目的に2008年に始まりました。各校がブースを構え、接客姿勢や商品説明、演出、独創性など「商いの基本」が評価されます。



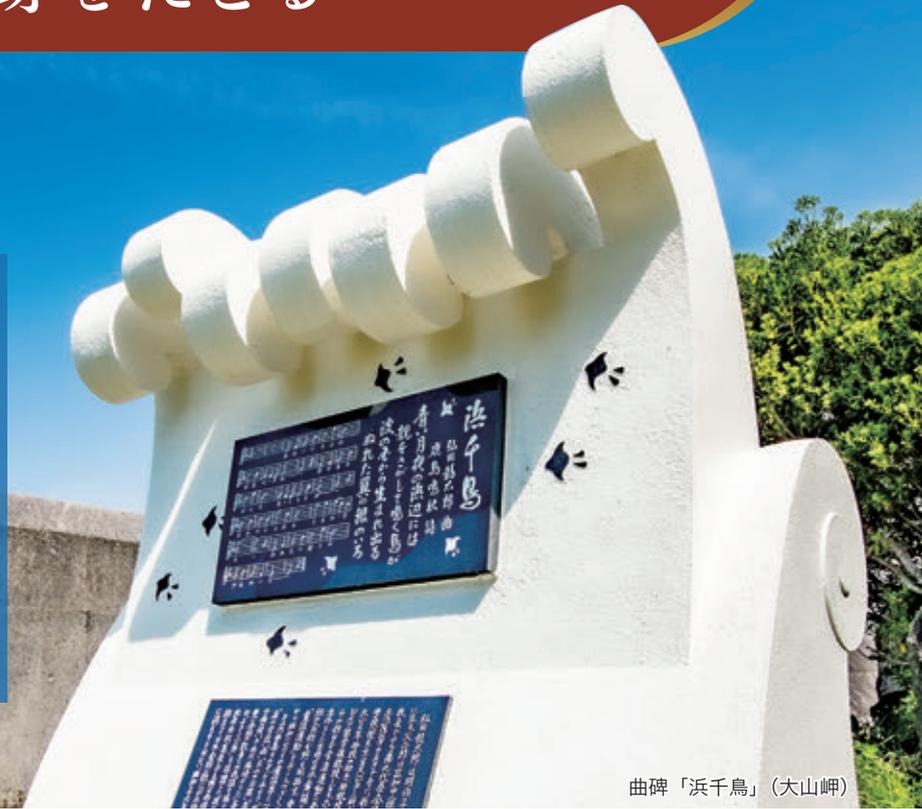
### 商い甲子園

県内外から高校生約100人、買い物客約1,000人（2023年）が商店街に集まる一大イベントです。



## 世代を超えてつながる 故郷の名曲

安芸市の各所にある童謡の曲碑は、郷土出身の作曲家・弘田龍太郎の功績をしのび「童謡という何年たっても滅びない素晴らしい遺産をみんなで大切にしよう」と建てられました。各地にある曲碑を巡ると、安芸の名所をたどることができます。



曲碑「浜千鳥」(大山岬)

ひろ たりゅう た ろう  
**弘田龍太郎** 1892-1952

土居村西木戸生まれ。東京音楽学校（現東京芸術大学）器学部ピアノ科を卒業後、新設された作曲部に再入学。その後、同校の講師、教授となりました。琴・三味線が主体だった舞踊界に洋風の伴奏を取り入れ、童謡運動「赤い鳥運動」にも参加。「靴が鳴る」「浜千鳥」「叱られて」「雀の学校」「春よ来い」などの名曲を次々と発表しました。



生誕130周年記念コンサート

2022年には生誕130周年記念コンサートを開催。参加者全員で「浜千鳥」を歌い上げました。テノール歌手の秋川雅史さんは「4歳から80代が一つの曲でつながり合える。童謡の文化が世代を超えて広がっている」と話してくれました。



## 曲碑一覽

曲碑だけでなく、夕方に流れる放送や公衆トイレから流れる曲も童謡のメロディーです。



鯉のぼり  
(溝ノ辺公園)



雨  
(赤野休憩所)



お山のお猿  
(浄貞寺)



靴が鳴る  
(安芸駅前広場)



叱られて  
(土居公民館)



咲いた桜に  
(内原野公園)



浜千鳥  
(大山岬)



金魚の昼寝  
(江ノ川上公園)



雀の学校 (土居橋)



詳しくは  
こちら

春よ来い  
(岩崎彌太郎生家前)



とみ た こう じ ろう  
**富田幸次郎** 1872-1938

**高知新聞を創刊、衆議院議長にも就任**

私立芸陽学舎を卒業後、小学校教員を経て土陽新聞に入社。明治37(1904)年に仲間と共に高知新聞を創刊し、主筆の後、社長となりました。その後は衆議院議員に。衆議院議長にも就任しました。俳句や書に深い造詣を持ち、俳号は安芸川・伊尾木川に挟まれた故郷を懐かしんで「双川」と号したといわれています。



**安芸市立  
歴史民俗資料館**

安芸市立歴史民俗資料館では、安芸市の歴史と暮らしの軌跡をたどることができます。岩崎彌太郎はもちろん、作曲家・弘田龍太郎、ジャーナリスト・黒岩涙香といった偉人について学べる人物コーナー、土佐藩の家老・五藤家に伝わる美術工芸品、その他には民具や考古資料、安芸市の民俗・芸能についても展示しています。



展示室

くろ いわ るい こう  
**黒岩涙香** 1862-1920

**反骨のジャーナリスト**

17歳で大阪に出て英語専門学校に入学。翌年、東京で成立学舎、慶応義塾に学び、新聞記者として各社を転々とし、明治25(1892)年に新聞『萬朝報』を創刊。政財界の腐敗を厳しく批判する反骨精神が大衆に受け、発行部数は30万部超。翻訳小説も次々と発表。代表的な翻訳小説に『噫無情』『鉄仮面』『巖窟王』があります。



ゆうひ せっけん  
有樋石剣  
(川北山田山遺跡)



まさき えびながたべんとう  
時絵船形弁当



あさげいとおどしどうまる  
浅葱糸威胴丸



まんしょうほう  
萬朝報



翻訳本

**五藤家家宝の「やじり」**



安芸を治めた五藤氏は山内氏に重用されました。その象徴となる「やじり」が資料館に収蔵されています。元亀元(1570)年、織田信長の越前朝倉攻めに従軍した山内一豊は、敵を討ち取ったものの、顔を矢で射られます。そばにいた五藤為浄が矢を抜こうとしても抜けず、一豊が「草履履きのまま顔を踏みつけて抜け」と命じて、ようやく抜くことができました。

こうして、武功のきっかけとなったやじりが五藤家の家宝となり、わらじは五藤為浄らを祀る藤崎神社のご神体となったのです。為浄はその後に討ち死にしましたが、一豊は弟の為重を重用して慶長6(1601)年に安芸を与え、五藤氏は幕末まで山内家の家老を務めました。



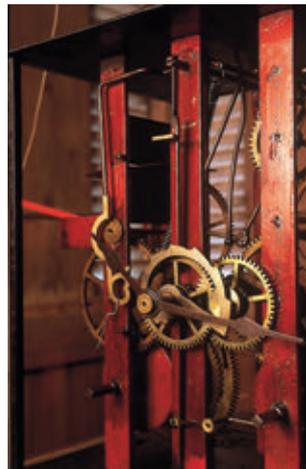
## 田園風景にたたくむ野良時計

安芸市のシンボル「野良時計」は、明治時代に一人の男性の手によって作られました。

土居村（現在の安芸市土居）の大地主の息子であった畠中源馬氏は、父親から米国製の八角柱時計を買い与えられます。西洋の機械文明に触れ、強い興味を持った源馬氏は、それを何度も分解しては組み立て、その原理と構造を覚えたといいます。

「自分の手で、大時計を作りたい」。源馬氏は試作と改良を重ね、すべての部品を一人で作り上げ、明治20（1887）年、ついに白亜の櫓時計を完成させました。まだ一般家庭に時計が普及していないこのころ、畠中家の櫓時計は、野良仕事に励む村人たちに正確な時を知らせたといいます。

野良時計前の畑では、毎年夏になると住民が育てた約2万本のヒマワリが咲き、訪れた人を出迎えます。



野良時計の内部



いいねあ  
point

### 伝統が生む新たなにぎわい

安芸市のまちは、武家屋敷が集まる北側と、商いで栄えた沿岸部の南側に大きく分かれています。南側の商店街は飲食店やスナックが立ち並ぶ、市民のにぎわいの中心地。安芸らしい伝統建築を活用した飲食店や宿などもオープンし、まち巡りのイベントも行われています。

### 伝統建築を活用した飲食店など



宿

1930年代に建てられた古民家を活用した宿



飲食店

豪商須藤家一族の邸宅を活用したイタリア料理店



喫茶店

国の登録有形文化財の建物を生かした喫茶店



## 一步入ると武士の時代 土居廓中

野良時計の北側には、歴史的な景観を守ってきた「土居廓中」があります。

この地を治めていた安芸氏の滅亡後、長宗我部氏の支配を経て、山内一豊の土佐入国時に五藤氏が居を構えます。その際、碁盤の目状に武家屋敷が建ち並ぶ土居廓中が整備されました。

各家は伝統的な「武士の家」。玄関を入ると長四帖の長押、「武者隠し」という三尺壁、塀中門、庭、菜園があります。長年にわたって市と住民が一体となって町並みの保存に取り組み、景観や保存活動が高く評価されています。



玉石でできた「玉石練塀」



### 野村家住宅

江戸時代末期に建てられた住宅です。一般開放され、無料で見学ができます。正門の奥にも門がある「塀重門」と呼ばれる伝統的な武家屋敷です。



### 古民家活用 交流拠点に

こちのや  
「東風ノ家」宿主 仙頭 杏美さん



### 東洋的漫遊祭

歴史的な町並みと異国情緒を楽しむ人気イベント。出店や音楽演奏でにぎわいます。

安芸市に生まれ育ち、「いろいろな文化や職業の人と関わる拠点をつくりたい」と1930年代の古民家を改修して宿を始めました。お客さんが夜の街へ出て、「地元の人と交流ができた」とうれしそうに帰ってくると、幸せな気持ちになります。

街中にも土居廓中にも、魅力的な古民家がたくさんある。活用を進め、にぎわいを生んでいきたいです。





## 培われてきた書道の文化

江戸時代に藩の家老が置かれ、学問が盛んだった安芸市は、多くの書の大家を生んだ「書道王国」です。明治時代、安芸の先人たちは「書道を芸術に高めよう」「現代日本の書を背負って立とう」という大きなうねりの中で、数々の傑作を生み出しました。全国初の公立書道美術館もこのまちにあり、培われてきた書道の文化は、今も脈々と受け継がれています。



### 安芸全国書展高校生大会

全国各地の高校生が書道作品を寄せる大会です。2023年は650点の応募がありました。表彰式に合わせて開かれる揮毫会では、入賞した高校生たちが巧みな筆遣いを披露します。

いいねあ  
Point

### 毎月書かれる「あき」の文字

『広報あき』の表紙にある「あき」の文字は市内の小学生が書いています。2024年2月号は土居小学校の山下湧希さんが担当。「いろいろなことにチャレンジしてみたくて立候補しました」と話していました。



## 安芸市立書道美術館



約2000点を収蔵する「書の殿堂」です。これほど多くの書と出会う場所はなかなかありません。昭和57(1982)年に設立した書道美術館は安芸城跡にあり、書道に関する資料や書籍も充実しています。市出身の南不乗氏の尽力により全国の書家から多数の作品が寄せられ、全国書展なども開かれています。



展示室

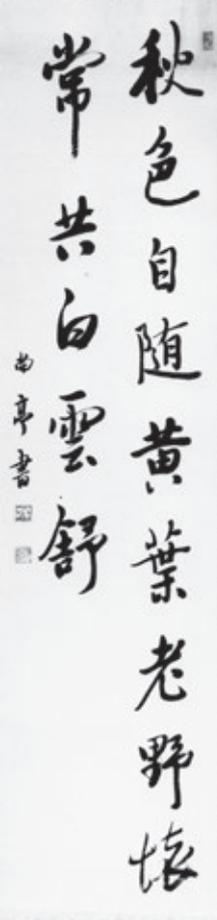




川谷尚亭  
1886-1933

### 桂浜に碑文建つ

兄・横雲の勧めで近藤雪竹に師事し、頭角を現します。大正7(1918)年に三菱造船会社に入社。後に大阪に移り、雑誌『書之研究』を創刊。昭和3(1928)年には『書道史大観』を著し、近代書道をリードしました。桂浜に碑文が建ち、浪漫的で律動的、清澄感あふれる格調高い書風です。



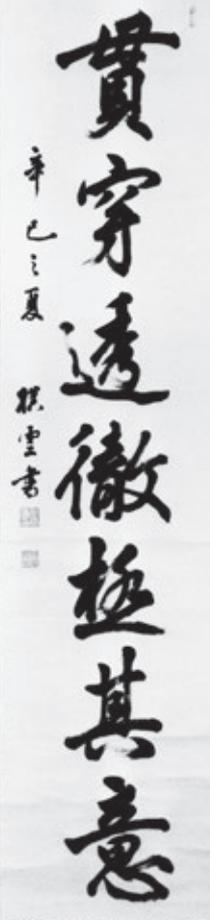
秋色自随黄葉老



川谷横雲  
1874-1954

### 書道教育に貢献

川北村の酒造家に生まれ、幕末三筆の一人、貫名松翁門下の西川蓼花に指導を受け、若林快雪らの通信教授で上達。明治43(1910)年に上京して修行を積みました。高知師範学校で教鞭を執り、雑誌『書之研究』会長、日本書道連盟総務、高知県書道協会会長などを歴任。書道教育に大きく貢献しました。



貫穿透徹極其意

# 書

## 先人の

書の新たな時代を開いた先人の業績を紹介します。

### 「書は人間の靈知の所産」



手島右卿  
1901-1987

大日本書道院第1回展から審査に関わり、日展参事、独立書人団代表などを歴任しました。「書は人間の靈知の所産である」と東洋の精神性と現代感覚を融合させた「象書」を創始。ブリュッセル万博(1958年)に出品した「抱牛」で最高殊勲金星を受け、書道芸術の評価を高めました。



一言引衆言

### 墨線芸術を 発表



高松慕真  
1908-1977

古典書を追究しながらも、絵画の感覚で鑑賞できる「墨線芸術」を発表しました。川谷尚亭に師事。日本書道美術院、墨線美術協会の結成や独立書道会の創立に尽力しました。志操堅固な気質飄々とした人柄で「ぼしんさん」と呼ばれて慕われました。手島右卿の弟。



看華出洞

### 現代日本の書背負う



南不乗  
1914-1991

自由奔放・個性豊かでありながら、格調ある書を追究しました。在野精神に富み、土佐の風土と気質を愛して「現代日本の書を背負って立つ」として現日会を設立。安芸市立書道美術館の建設のために奔走し、自ら多数の作品を制作して援助を惜しみませんでした。手島右卿の末弟。



雲



## 素朴で温かな美 内原野焼

温かみのある素朴な風合いが特徴で、しっかりと手になじむ器。安芸市では、生活を支える伝統的な焼き物が作られています。

市街地から北へ約4キロの所に、“焼き物の里・内原野”があります。内原野焼は、江戸時代に安芸を治めた五藤氏が、焼き物に適した良質の粘土があることを知り、藩の許可を受けて焼き始めたものといわれています。

当初は酒徳利が中心で、次第に庶民の生活に必要な水瓶や手水鉢ちようずぼちなども焼かれるようになりました。大正末期から昭和初期の最盛期には、6軒の窯元に50人以上の陶工が働き、京阪神の市場にも出荷されていました。戦後間もないころは、物不足の影響もあって生産が追い付かないほどでした。その後、化学製品が出まわるようになってからは、生産の中心は土佐寒蘭用の鉢などに移っていきました。

昭和40(1965)年から44年にかけて、京都市立美術大学(現京都市立芸術大学)の初代学長・長崎太郎氏(安芸市出身)の紹介によって卒業生3人が移り住み、内原野焼に新風を吹き込みました。

現在は、鉢物や伝統民芸品、花器、茶器などが作られています。毎年4月には、土と炎の祭典「手づくり登り窯フェスタ」を開催しています。



伝統的な登り窯による焼成



市立安芸中学校に設置された陶壁画「飛び立つ」

## 無病息災願う 安芸瓦

安芸市では瓦の生産も盛んです。川北地区を中心とした安芸平野には、瓦に適した良質の粘土が豊富にあったことから、元禄13(1700)年、土佐藩が伊予菊ヶ浜(現在の愛媛県今治市)から半兵衛という瓦職人を呼び寄せ、城の修理や武士の家を建設するための瓦を焼かせたのが始まりといわれています。翌年、安芸市東浜の清右衛門が藩の許可を受けて、伊予からさらに茂兵衛・五右衛門という親子の職人を招き、一般民家の瓦を作り始めました。茂兵衛親子はその腕前を買われて藩の御瓦師となり、鯨や鬼瓦など、特別な技術がある瓦を製造しました。

強固で雨に強く、独特の風格を持つ瓦は「安芸瓦」と呼ばれ、全国に知られています。鬼瓦は屋根の棟の端にあつて家を守る役目があり、家内安全・無病息災を願う象徴として、一つ一つ丁寧に作られています。



抱き茗荷の家紋が入った鬼瓦



瓦板画



瓦を製作する西山春幸さん



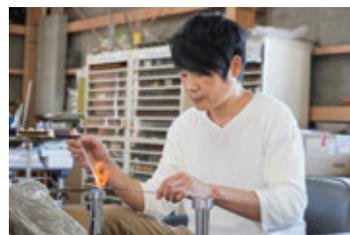
安芸瓦

## 内原野陶芸館

幅広い世代が気軽に内原野焼を見て、触れて、体験できる施設です。手びねりや絵付けによるオリジナル陶器を作ることができます。ガラス工芸体験ができる工房もあり、市民はもちろん、休日には県内外の家族連れなどでにぎわっています。



内原野焼の湯飲み



ガラス工房では、バーナーワークやサンドブラストによるオリジナルのガラス製品を作ることができます。



### 豊かな自然 作品のモチーフに

にしむら いる  
内原野焼 陶芸家 西邨 出さん

内原野焼は他の産地に比べて決まり事が少なく、素朴な地域色は残しながらも、個人の作家的な活動と組み合わせで作っています。ものづくりをしていて、安芸市の自然の豊かさがありがたいですね。風や水の流れとか、作品のモチーフになるのはやっぱり自然なので。心が落ち着く環境で仕事ができます。

これからは陶芸と観光を結びつけて交流人口をもっと増やしていきたい。安芸市に来てもらって、ものづくりを体験して、お土産も買ってもらうような流れにできればと考えています。

# AKI EVENT CALENDAR & GOURMET

四季を通じて、風景・食・イベントが楽しめます。

## 1月

- 新年走ろう会
- 寒中水泳大会
- 成人式

## 2月

- 豆まき



## 3月

- 安芸市駅伝競走
- 土佐の町屋ひなまつり

## 4月

- 内原野つつじ祭り
- 手づくり登り窯フェスタ



## 5月

- あなごまつり
- 全日本大学女子硬式野球選手権高知大会
- 東川茶摘み

## 6月

- 安芸全国書展

## 7月

- 赤野神祭
- 安芸全国書展高校生大会
- 土佐よさこい  
ソーデーウオーク
- 安芸市夏季大学講座

## 8月

- 安芸納涼市民祭
- 全国「面白い甲子園」大会
- 安芸市民音楽祭

## 9月

- ウェスタン・リーグ公式戦
- みんなあつまれ子育て広場

## 10月

- 高知東海岸グルメまつり  
& 鉄道の日
- 安芸市芸能祭
- あき元気フェスタ
- ハロウィン祭り
- 早摘みユズ収穫祭
- 東洋的漫遊祭

## 11月

- 阪神タイガース秋季キャンプ
- 姉妹都市交流  
in たつの市民まつり
- あきあいあい収穫祭
- 安芸市展
- 東川ゆづ採り体験

## 12月

- 童謡の里 あき芸術展
- 安芸キャンドルナイト
- 安芸タートルマラソン
- 東川ふれあい市



## 内原野公園

春には約1万5千本のつつじが咲き誇り、多くの観光客が訪れます。公園内には、藩政時代に殿様用の休憩所として建築された延寿亭や「全国ため池百選」に選ばれた弁天池があり、風情ある景色が楽しめます。



つつじ祭り(4月)



土佐の町屋ひなまつり(3月)



手づくり登り窯フェスタ(4月)



安芸納涼市民祭(8月)



あきあいあい収穫祭  
(11月)



赤野神祭(7月)



### 伊尾木洞

安芸市に面した太平洋からの波により浸食されてできた天然の洞窟です。高さ約5m、幅約4mの広さで、延長は約40m。40種類以上のシダが自生しており、国の天然記念物に指定されています。木漏れ日と緑が織りなす幻想的な世界が広がっています。



### 安芸キャンドルナイト(12月)

岩崎彌太郎の誕生日をロウソクの灯でお祝いします。安芸駅前の広場がキャンドルで幻想的に演出されます。地元の小学校が協力した、彌太郎バースデーキャンドルも登場します。



安芸タートルマラソン(12月)



みんなあつまれ  
子育て広場(9月)



高知東海岸  
グルメまつり(10月)



ちりめんドンちゃん  
@やなせたかし

グルメ

Gourmet



### 土佐酒

市内には、江戸時代から続く酒蔵を持つ光酒造場と、多種多様なリキュール・商品開発で知られる菊水酒造の2蔵があります。



芋けんぴ



土佐ジローの  
親子丼



かき揚げ  
ちりめん丼



土佐茶



手作りアイス



なすのたたき



釜あげちりめん丼

# 自然の恵みを生かす一次産業

太平洋に面し、温暖な気候に恵まれた安芸市では、豊かな自然を生かした農業・林業・畜産業・水産業などの一次産業が盛んです。地域の生業を次世代につなぐため、後継者育成の支援にも積極的に取り組んでいます。



いいねあ  
のPoint

## 新規就農のためのサポート

## 農業

### 施設園芸の先駆け ナス栽培

農業が盛んな高知県の中でも、安芸市は豊かな土壌と温暖な気候、長い日照時間を生かした施設園芸の先駆けの地です。特にナスは全国各地に出荷され、ハリとツヤのある美しい紫紺色とやわらかな味わいが非常に高い評価を受けています。

高知ナスなどは10月から6月ごろまでを中心に出荷。ハチや天敵を導入した環境保全型農業、IoTを駆使した環境制御・データ駆動型農業の導入など、新しい技術を常に取り入れ、安全安心、高品質な野菜を育てています。

安芸市では、安心して施設園芸に就農できるようにトータルサポートを行っています。研修への補助に加え、サポートハウスの貸し付け、ハウスの建設や改修への支援などに力を入れています。2010～2023年で、計61人が研修を受け、計48人が就農しています。

体験

#### 農業体験

- ◎農業体験ツアー
- ◎収穫体験
- ◎受け入れ農家、研修生との意見交換など



研修

#### 農家元での実践研修

- ◎受け入れ農家などで1～2年の実践研修（うち最低3か月は担い手センターまたはアグリード土佐あき）
- ◎安芸市就農支援チーム 就農資金、青年等就農計画などに関する勉強会を開催（年1～2回程度）



就農

#### ハウス整備の支援

- ◎研修を終えた人にハウスを貸し付け、研修後の実績づくり（サポートハウス）
- ◎中古ハウス再利用への補助など

#### 施設園芸用ハウス整備

- ◎新設ハウスのレンタル（JA）



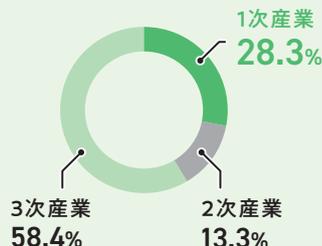


memo

### 安芸市の第一産業の割合

安芸市で働いている人を職業別に見ると、第1次産業が28.3%、第2次産業が13.3%、第3次産業が58.4%となっています。

第1次産業では高知県の平均を18.2ポイント上回るなど、農業従事者が多いことが特徴です。(令和2年国勢調査)



### 主な業種別割合(人)

2,399人



## 生産量全国一 ユズ栽培

毎年冬になると、山あいでは黄色く色づいたユズがあちらこちらに見られます。安芸市はユズの生産量全国一（JA高知県安芸地区管内）を誇る大産地です。収穫したユズは選別して搾汁され、果汁はポン酢やジュースなどの原料として、皮は香料や食品加工用として全国に出荷されます。

近年、生産者の高齢化や集落の過疎化に伴う労働力や担い手不足などの課題解決策として、大学生による「ゆずとり援農隊」を実施するなど、労働力不足の解消と交流人口の拡大による地域の活性化を図っています。



## 入河内大根

入河内地区の伝統野菜「入河内大根」は青首大根の約3倍の大きさで、通常のもので4~5kg、大きいものでは10kgを超えます。甘味があり、きめが細かくて煮崩れしにくいのが特徴です。地元の生産者グループ「入河内大根のこそう会」が大切に栽培し、PRや伝承活動に取り組んでいます。



## 土佐茶

入河内地区や下山地区では茶葉栽培も行われ、香り豊かな「安芸の土佐茶」として販売されています。



### 手厚い研修制度で安心でした

ナス農家 渡辺 優士さん

JAと市のサポートが手厚く、安心して就農できました。安芸市出身で父もナス農家でしたが、以前は「継ぎたい」とも「継ぎたくない」とも思っていなかったです。県外で働いていた時は、子どもが寝た後に帰って、起きる前に出社。妻はワンオペ育児で2人とも疲弊していたとき、市の研修制度の話を聞きました。2人目の子どもが生まれたタイミングで帰郷し、父とは別に新たにハウスを建てて就農しました。2年間の研修では基本的な作業に加え、いろいろな考え方を学べたし、他の農家との交流・勉強会の機会をつくってくれて助かりました。

# 林業

## 豊かな資源を守る

安芸市は、市域の89%を森林が占める自然豊かなまちです。別役地域には天然のブナ林が広がり、天然記念物のニホンカモシカが見られたり、ツキノ

ワグマが生息する剣山系に続く森があったりと生物の多様性にあふれています。

広大な森林はスギ、ヒノキを産出し、林業は中山間地域の基幹産業として発展してきました。特用林産業として土佐備長炭の製炭も行われ、東山森林公園では森林浴やトレッキングに市内外から多くの人々が訪れています。

森を巡り流れる河川は多様な環境とそこで生活する人々の多様な産業をつ

なぎながら太平洋へ注ぎます。安芸市では「森づくり＝まちづくり」という考えのもと、豊かな森林資源を守り、産業を振興させるために「安芸市流域森づくり構想」を令和5（2023）年度に策定しました。林業・木材産業の課題解決に向けた取組のほか、森づくりを通じた教育や環境先進企業と協働した森林整備、小さな林業（自伐型林業）の推進にも取り組んでいます。



いいポイント



## 市民による森づくり

安芸市のこれからの森づくりについて考える市民ワークショップの開催や市民団体による森林浴イベントの開催など、森林を身近に感じ、森林の機能や役割について学ぶことができる取組を行っています。

# 畜産業

## 土佐ジロー求め全国から

安芸市は高知県の地鶏「土佐ジロー」の産地でもあります。小型で濃厚な卵で有名ですが、食肉用に特化して育てているのが畑山地区。中心部から車で約40分という立地ながら、山々に囲まれた美しい風景とおいしい土佐ジローを求め、全国各地から人々が足を運ぶ地域となっています。



## あるものを磨き続ける

はたやま夢楽 社長 小松 圭子さん

私たちは畑山の豊かな自然が好きで、ここに暮らし続けています。生産環境へのリスペクトを抱き、共感してくれる仲間も少しずつ増えたことで、約20人の集落に毎年2000人弱が訪れるようになりました。パートを含めて12人が働く産業にもなっています。あるものを消費するのではなく、磨き続ける。これからも「ジロー」を軸に考えていきたいと思えます。



# 水産業

## 名物・ドロメ漁

ちりめんじゃこの名産地として知られる安芸市。市内を流れる2本の川と、全国的にも多い雨量が山から豊富な栄養分をもたらすため、安芸の沿岸には

豊かな漁場が形成されています。漁港の漁獲量の約8割を占めるドロメ（生シラス）漁は、2隻1組で袋網を引っ張るのが特徴です。取れたてのドロメは漁港近くの加工場で釜ゆでされ、天日干しされます。加工業者が並ぶ海岸通りは「ちりめんじゃこ通り」と呼ばれています。

出来上がったじゃこを炊き立てのご飯の上に乗せて食べる「釜あげちりめん丼」は市民のソウルフードであり、

観光の看板でもあります。安芸商工会議所を事務局として、安芸『釜あげちりめん丼』楽会がPR活動などを行っています。

ドロメを中心に、魚のさらなる高付加価値化を目指し、加工体制の構築や観光漁業の振興に努めています。また、新規漁業就業者への支援事業を通じた担い手育成など「守り育てる漁業」にも取り組んでいます。



### すべてがつながってじゃこがおいしい

安芸『釜あげちりめん丼』楽会会長 仙頭 ゆかりさん

安芸市といえば「じゃこ」。市民のソウルフードじゃこ。小さい時から食べ慣れちゆうものが、一番の宝になる。安芸市をじゃこの聖地にしようとして2005年に安芸本町商店街の女性部と安芸市まちづくり委員会が一緒になってちりめん丼を考案して、2010年に楽会が設立されました。毎月15日を「じゃこの日」として、学校給食

でじゃこを食べる日にしつつ、食育の授業も行っています。じゃこを通じて、ほかのまちとのつながりも生まれました。

いいなぁと思うのはやっぱり自然。海は世界とつながっていて、山と川があるから豊かな海になり、すべてがつながってじゃこがおいしい。海を見たら元気をもらえるじゃこ。





# スポーツキャンプの まちづくり

安芸タイガース球場（安芸市営球場）



2023年の日本一を喜ぶ市民たち。歓喜の瞬間を多くの人が祝いました



黄色と黒の縦じまをあしらった「阪神タイガース応援列車」はまちのシンボルの一つです

## 選手とともに タイガースタウン

プロ野球・阪神タイガースのキャンプが昭和40（1965）年から続く安芸市は、虎ファンが大勢いる「タイガースタウン」です。キャンプ中は選手を間近で見ることができ、全国から訪れる大勢の観客でにぎわいます。

勝てば選手と一緒に喜び、負ければ一緒に涙する。安芸市には、長年のキャンプで育まれた市民と選手との熱い絆があります。38年ぶりの日本一に輝いた令和5（2023）年は、まち全体が沸きました。

タイガースとの縁で始まったスポーツ施設の整備は、さまざまなイベントや交流、市民の健康増進活動にもつながっています。



阪神タイガースのマスコットキャラクター「キー太」



### 阪神選手による野球教室

阪神タイガースファーム公式戦（ウエスタン・リーグ）に合わせ、選手による野球教室も開かれています。安芸市内外の子どもたちに、選手たちが投球や打撃のフォームをアドバイス。タイガースタウンならではの、憧れのプロの技術に触れる貴重な機会です。

## 社会人や大学のスポーツ合宿も

阪神タイガースとのご縁を生かし、球場施設を活用した「スポーツキャンプのまちづくり」に取り組んでいます。

プロ野球に限らず、全国規模の大会が開かれており、社会人や大学のスポーツ合宿も盛んに行われています。市営球場や安芸ドームなどを計画的に改修し、より良い環境づくりと地域の活性化、にぎわいの創出につなげる取組を進めています。

また、総合型地域スポーツクラブの活動も支援し、市民が気軽にスポーツを楽しめる環境づくりを促進しています。



安芸市営球場



多目的体育館 安芸ドーム



全日本大学女子硬式野球選手権 高知大会



社会人野球チームの合宿



### タイガースとの縁が未来に

安芸猛虎会会長 長野 泰啓さん

阪神と市民との縁をつないできたのが安芸猛虎会。38年ぶりの日本一ですからうれしいですよ。物心ついたころから阪神ファン。仲間たちと応援し続けてきました。2023年は絶対に優勝、日本一になるから、と早くから優勝パレードの予算を組んでいました。タイガースとの縁を大事にしていくことが未来につながる。これからも応援していきます。



移住者インタビュー

## 安芸市暮らしの魅力とは？

自然と触れ合い、  
子どもの感性を  
育てたい

井上 将太さん



子育て世代こそ、  
田舎暮らしをおすすめします！

東京での大きな仕事に区切りがつき、自然の中で子育てをしたいという思いから2018年に県外からUターン。家業である工務店を引き継ぎ、2019年には(株)井上建築を設立しました。安芸市で子どもが生まれ、現在は親子3人暮らし。両親とは敷地内同居の関係です。

自営業なので土日が仕事になることもありますが、それでも業務時間を自分でコントロールし、家族の時間を大事にしています。夫婦それぞれにライフワークがあり、仕事以外でも忙しくしていますが、近くに住む両親のサポートは本当にありがたいと思っています。子育て世代の方には、心からUターンをお勧めします！

安芸市は過疎でも過密でもなく“ぼっちり”（ちょうどいい）。病院などの施設もそろっているので困ること

はありません。安芸市の病児保育は1日1,000円で利用でき、心強いです。また、食材のおいしさも格別ですし、海と山が近い環境というのも他にはない魅力です。

子どもの将来について考えたとき、地方にいるからといって選択肢が少ないわけではないと思います。最近では新しい形の通信制の学校も出てきていますし、子どもが高校に行く頃には、また違う技術革新が起こっていると予想しています。そもそも机に向かってする勉強よりも、幼少期に自然と触れ合って得られる感性や自分で考える力を身に付ける方が大事であり、それこそが田舎だからできる教育だと考えています。

これから移住を考えている人は、まずは安芸市に来て、地元の人から遊び場所やおいしいものを聞いて、本当の地域の魅力を体験してほしいです。そのためにも、いろいろな人が集まれる“森の広場”作りも計画しています。

いいねあ  
のPoint

移住支援の  
取組

POINT  
1

移住者数は県内上位の実績

2023年度には、高知県外から75組93人が安芸市に移住しました。温かい人と豊かな自然に囲まれた「自分らしい暮らし」を目指して、多くの人が安芸市を訪れています。

POINT  
2

さまざまな移住支援策

引越し費用の一部を補助する制度のほか、起業を応援する制度や、就農を支援する「新規就農トータルサポート」などがあります。

また、三世代同居や近居となる子育て世帯の移住を支援する補助金や、新婚世帯を支援する補助金などもあります。



## 落ち着けるのが このまち

草野 隆美さん



### 安芸市民で居続けたから 出会えた仕事に

落ち着いて暮らすことができる。住み心地がよい。この二つを強調したいです。人生の先輩方と交流する機会が大きく増え、安芸のことをたくさん教えていただける。その表情がうれしそうで、ほっこりした気持ちになります。

名古屋のホテルで24年間働きました。ある時、「生活を変えることで自身も気づいていない能力を見つけられるのでは」と思い、地方で暮らすなら、温暖な気候がよかったのとプロ野球が好きだなと考えると高知県が頭に浮かびました。

その中でも、安芸市が地域おこし協力隊の移住・定住担当を募集していたので、地域の外から来るからこそできる仕事だと思い、応募したのがきっかけです。好きな球団ですか？ 中日ファンから阪神ファンになりました。

地方の生活も結構忙しいのが現実だ

と思います。しかし、その忙しさが苦しいと感じることは少ないです。周りの人が見守ってくれたり、助けてくれたり。何よりも、豊かな自然です。空気の質が違います。海にも山にもどちらにもすぐに行けて、安芸海岸ではよくたそがれています。自然が癒やしてくれる感覚がありますね。

協力隊の後は、県内企業に採用されて南国市で働いていました。会社からは「勤務地の近くに住んだら？」と言われましたが、安芸市に暮らすことに価値を感じていましたから、安芸から通い続けていました。そうしたら、ご縁があって2024年から岩崎彌太郎生家の施設を管理する仕事をいただくこととなりました。安芸市民でいたからこそ出会えた仕事ですし、とても光栄で身が引き締まります。これからはずっと、安芸市民でいたいと思っています。

POINT  
3

### 住まいと仕事探し

移住には、住まいと仕事探しが不可欠です。住居探しは安芸市内の不動産業者のほか、安芸市が実施している「空き家バンク」も活用できます。

仕事は「ハローワーク安芸」などから探せます。起業や就農などを検討されている場合は、まずは市役所の移住担当である企画調整課にご相談ください。

安芸市への移住に関する  
最新情報はこちらから！



# 広がり、つながる安芸市の輪



## 姉妹都市

### 兵庫県たつの市

たつの市は、童謡「赤とんぼ」を作詞した三木露風の出身地です。童謡を生かした取組が縁で、平成元（1989）年に姉妹都市提携を結びました。未来を担う子どもたちの健やかな成長を願い、豊かな情操を育む「童謡の里づくり」を目指し、互いに理解と友好を深める交流が続いています。

平成13年には、大規模な災害に備えて災害相互応援協定を締結しました。



三木露風の生家



童謡「赤とんぼ」の碑（龍野公園）



姉妹都市提携30周年記念式典



龍野城の城下町「たつの市龍野伝統的建造物群保存地区」は、国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されています

## 友好都市

### 広島県広島市安芸区

同じ「安芸」であることが縁で、平成26（2014）年から交流を深めています。「安芸区民まつり」での釜あげちりめん井の販売や、ちりめんじゃこを通じた小学生の交流事業などを行っています。平成29年には「災害時における相互応援に関する協定」を締結しました。



瀬野川河川敷



安芸区民まつりでの釜あげちりめん井販売

## 書道を通じた交流

### 高知県いの町、三原村



書道を通じ、高知県内の自治体との交流事業も行っています。令和5（2023）年には、いの町の和紙、三原村の硯、安芸市の書道による連携企画展「土佐の伝統をつなぐ」を紙の博物館（いの町）で開催。土佐和紙や土佐硯、書道の歴史を紹介しました。

岩崎家ゆかりの地

千葉県富里市  
東京都台東区  
岩手県雫石町

岩崎彌太郎の長男、岩崎久彌氏（三菱グループ第3代社長）ゆかりの史跡がそれぞれの地域にあることから「岩崎家ゆかりの地」と称して広域連携事業を行っています。

平成30（2018）年には「岩崎家ゆかりの地広域文化観光協議会」を発足。富里市、雫石町とは「災害時における相互応援に関する協定」も締結しています。



千葉県  
富里市



久彌氏が晩年を過ごした旧岩崎家末廣別邸

東京都  
台東区



久彌氏一家が暮らしていた旧岩崎家本邸

岩手県  
雫石町



久彌氏が経営に携わっていた小岩井農場

三菱グループとのつながり

安芸市は「三菱源流の地」としてこれまで、三菱グループとの関係性を築いてきました。主な交流事業をご紹介します。

協働の森

環境先進企業である三菱商事株式会社、東京海上日動火災保険株式会社、三菱商事エネルギー株式会社の社員と協働して森林保全活動を行っています。



三菱探究プロジェクト

安芸市の子どもたちに三菱グループの高い技術力とその熱意に触れてもらおうと、グループ企業の社員らによる講演会を行っています。



岩崎彌太郎ゆかりの地研修

三菱グループの社員が彌太郎生家などを巡り、三菱源流の地への理解を深める研修を行っています。



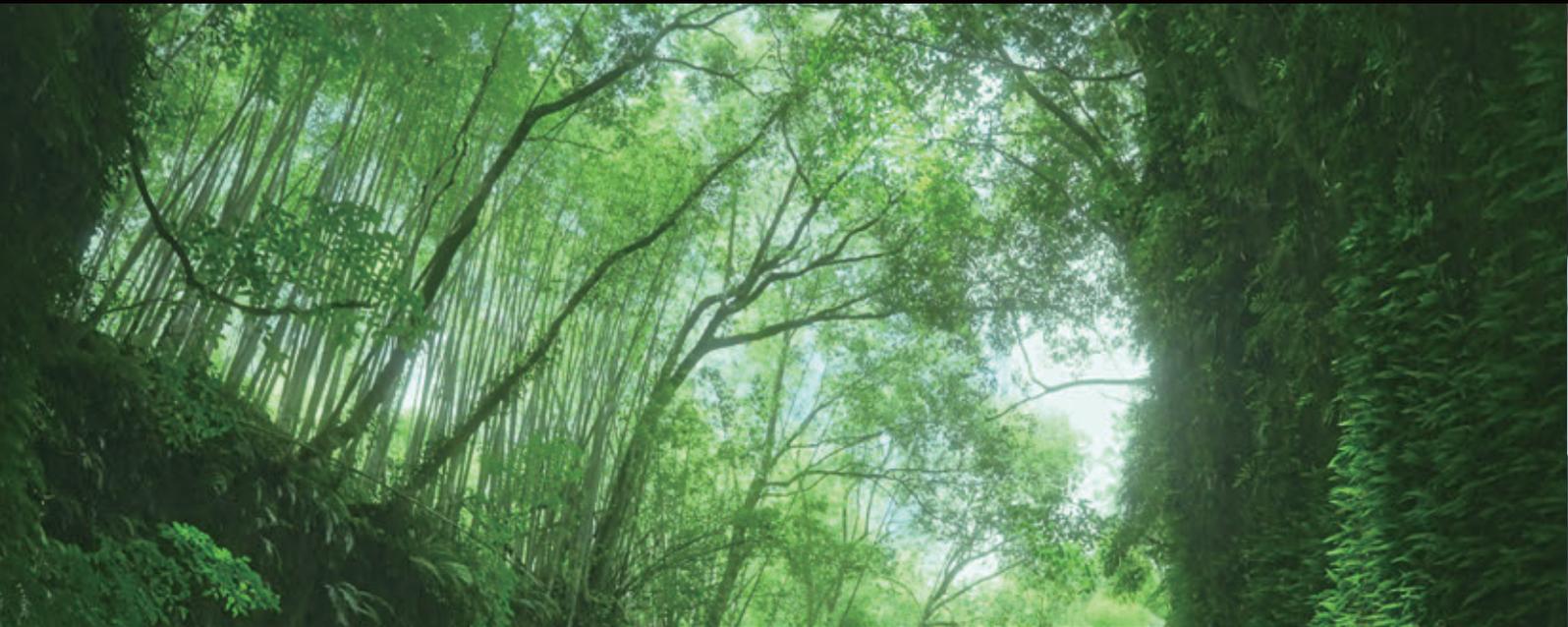
安芸市フェア

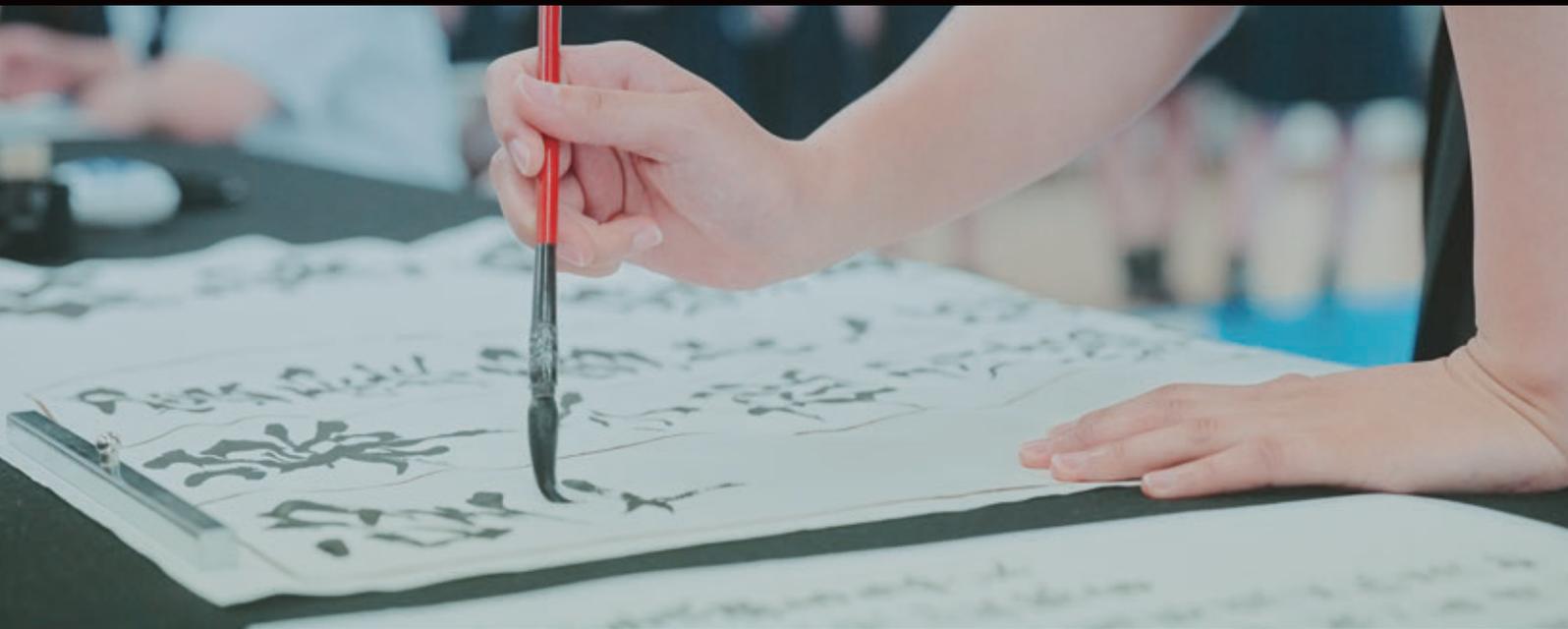
東京・丸の内にある三菱グループのビルで、安芸市の特産品を販売するフェアを令和6（2024）年に開催しました。



三菱重工Eastキャンプ

社会人野球チーム「三菱重工East」が、令和6（2024）年に初めて安芸市営球場でキャンプを行いました。





# 安全・安心な

まちへ



日ノ出町津波避難タワー

## 災害から命を守る防災・減災の取組

安芸市では、令和3（2021）年2月に、南海トラフ地震等の大規模自然災害に対し、安全・安心な地域づくりを推進するため、事前の防災・減災および迅速な復旧・復興等に係る施策を総合的かつ計画的に実施する「安芸市国土強靱化地域計画」を策定しました。

津波浸水区域外においては、防災拠点となる市庁舎の移転が完了し、新安芸中学校も開校となりました。また、津波避難タワーや避難路、避難場所などの施設を整備し、住宅耐震化などの補助および自主防災組織への支援により、防災・減災の取組を行っています。



赤野住吉津波避難タワー

### 住民による自主防災組織

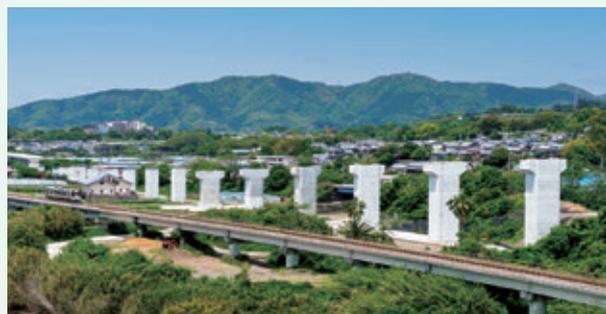


安芸市には現在57の自主防災組織があり、組織率は100%です。組織同士の情報交換などを行うため、自主防災組織連絡協議会を立ち上げており、年に数回ほど総会を行っています。毎年9月第1日曜日に開催される安芸市総合防災訓練では、避難訓練のほか、炊き出し訓練や消火訓練などを行っています。

### 交通アクセス向上へ

安芸市の各地では高規格道路の整備事業が着実に進んでいます。高知市や高知龍馬空港などへのアクセスが向上し、災害発生時における緊急輸送路の確保、交通渋滞解消など、さまざまな効果が期待されます。

市役所新庁舎の周辺などでも国道や県道、市道を整備し、快適な通行と歩行者の安全確保などが実現されています。



整備が進む高規格道路



安芸市役所庁舎

## 防災拠点として移転 市役所新庁舎

南海トラフ地震への対応が求められる中、市民の命を守ることを最優先として、防災拠点機能と行政機能を維持するための市役所新庁舎が完成し、令和6(2024)年1月から業務を開始しました。

大規模な災害に備えて免震構造を採用し、長期の停電に備えた非常用発電設備を設置するなど、防災拠点として安全・安心を確保するための機能を備えています。市民の皆さまの利用頻度が高い部署を1階に集約し、ワンフロアで手続きが完了できるように、利便性の高い窓口空間を整備しました。

交流の場として活用できる多目的室や、どなたでも利用できる食堂も配置。フローリングや食堂家具、窓口カウンターなどには安芸市産ヒノキを活用し、温もりを感じられる空間を実現しました。



1階フロア



エントランス



食堂

## 開かれた議会

安芸市議会は、年4回の定例会と必要に応じて開催される臨時会で議案などを審議し、最終的な安芸市の意思を決定しています。専門の常任委員会などでも審議し、市民の意思を市政に反映させるよう努めています。



議場



災害対策本部室

# 誰もが暮らしやすい

まちへ



## 赤ちゃんから高齢者まで 健康づくりの推進

一人ひとりが健康で生きがいを持って暮らせることが、元気で活力あるまちづくりにつながります。安芸市では「健康文化と快適な暮らしのまち創造プラン」を策定し、「ひとが元気 まちが元気 健康一番・あき」をキャッチフレーズに、市民の自主的な健康づくり活動への支援や健康意識の醸成に努めています。

健康ふれあいセンターを拠点として、病気の予防に重点を置いた生活習慣病対策や「いきいき百歳体操」の開催など、赤ちゃんから高齢者まで各世代に応じたきめ細やかな健康づくりに取り組んでいます。

高齢化が進み、一人暮らしの高齢者や高齢者だけの世帯、認知症の人の増加が見込まれています。このため、高齢者の生活支援や生きがいづくりの支援、介護予防事業や認知症対策など、高齢者が生き生きと安心して暮らせる福祉施策を推進しています。



### 地域ぐるみの健康支援

安芸市では、行政・医療・福祉の各機関が連携し、顔の見える関係性の中で市民の健康を守る取組を進めています。生活習慣病とその合併症の発症・重症化を予防するため、かかりつけ医による適切な指導や、行政による継続的な受診フォローなどを実施。患者さん本人が適切に健康管理できるように「地域ぐるみの健康支援体制づくり」を推進しています。

### 高知県立あき総合病院



高知県立あき総合病院は、高知県東部の中核病院で、圏域唯一の分娩施設でもあります。23の診療科を備え、精神科病床を含む270床の入院病床を有しています。また、東部地域の災害拠点病院であり、脳卒中や心筋梗塞等の救急医療、小児・周産期医療、へき地医療、新興感染症など幅広く対応しています。



## 就労支援

安芸市には「安芸市ワークセンター」、「ゆうハート安芸」、「共同作業所 ホップあき」という3つの就労継続支援B型事業所に加え、令和2（2020）年に開設された多機能型事業所「TEAMあき」があります。生きづらさを抱える人や障害者の自立と社会参加に大きな役割を担っており、誰もが地域で安心して生活できるように、相談体制の充実や就労支援に取り組んでいます。



商品の梱包作業

## 農福連携

いいなあ  
のPoint

生きづらさを感じている人や障害のある人が農業分野で働き、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく「農福連携」の取組が進んでいます。

元々は地域の自殺対策として始まり、平成30（2018）年にはJA 高知県安芸地区や安芸市、県、福祉機関などが「安芸市農福連携研究会」を設立しました。

人手不足に悩む農家と、障害のある人や引きこもりの人たちをマッチングさせる仕組みを構築。それぞれが自分の個性・特性に合わせ、収穫や袋詰めなどの仕事に取り組んでいます。さらに、「農福連携サミット」や講演会などを通じて地域全体で理解を深める活動も展開しており、農福連携の先進地として全国的に注目されています。



ナスの収穫作業



商店街と連携して開催している「軽トラマルシェ」



### みんなで一人を助ける地域づくりを

一般社団法人 こうち絆ファーム 代表理事 北村 浩彦さん

行政や支援機関、病院、地域の関係団体が広くつながり、「みんなでその一人を助ける」と連携できているのが安芸市の強みです。一人ひとりの困りごと、問題を解決するためのツールとして農福連携があります。みんなで安芸の地域づくりをしているイメージです。

利用者さんには、自分の作業が早く終わった

ら困っている人を助けるように伝えます。単に作業して収入を得るだけじゃなくて、周囲と一緒に楽しく生きていく力を付けてほしいと思っています。

子どもから高齢者までが安心して暮らせる地域づくりを県内外に広げていきたいです。



# 子育てにやさしい まちへ



## 安心を育む支援策

結婚や、子どもを生き育てることに対する多様な価値観や考え方を尊重しつつ、希望する誰もが安心して働きながら子育てができる環境づくりに努めています。

子育てにやさしいまちを目指し、安芸市は子育て支援、少子化対策を積極的に推進しています。

### 安芸市地域子育て支援センター

安芸おひさま保育所内に拠点を置き、体験入園や育児相談、講演会などさまざまな育児支援を行っています。

子育て仲間をつくって、子育てについて話をしたり、お子さまが友達と交流できる場所です。友達ができるイベントや給食の試食会も実施しています。



### 安芸市子育て世代包括支援センター★きらり★



妊婦や乳幼児の保護者などの心身の不安や悩み、育児の相談にお答えする市役所内の総合相談窓口です。保健師資格を持つ「母子保健コーディネーター」が常駐し、妊娠中から子育て期まで切れ目のない手厚い支援を提供しています。

## 1. 出会い・結婚

出逢いコンシェルジュが出会いイベントの開催や結婚相談など伴走して支援しています。  
新婚世帯が新生活を始めるための住居費や引越し費用の補助も行っています。

## 2. 妊娠・出産期

妊娠から出産・子育てまで、切れ目のない支援で安心。母子保健コーディネーターによる相談対応など、伴走型相談支援と出産・子育て応援金の取組を一体として実施しています。

## 3. 乳幼児期

発達段階に応じ、健康診査、栄養相談、歯科相談、育児相談、集いの場を支援する事業を実施しています。

## 4. 学童期

働きながらの子育ても手厚くサポートしています。



## 支援する施策一覧

### 妊娠・出産期

産後ケア事業	出産後1年未満の親と赤ちゃんを助産師等が訪問。乳房ケアや授乳方法、沐浴の仕方など、心身のケアと育児の支援を実施しています。
家事育児支援ヘルパー派遣事業	妊婦または乳幼児（就学前）を育てる家庭に対して、ヘルパーを派遣し育児負担の軽減や家事支援を実施しています。
出産・子育て応援金	妊娠届後と出生後にそれぞれ給付しています。

### 乳幼児期

あかちゃん・もぐもぐ教室	離乳食づくりから試食まで、親子で楽しく体験できる集いの教室です。
すくすく広場	乳幼児の計測、栄養母乳相談、親同士の交流、妊婦の交流を行っています。
歯ッピー・キッズランド	歯科相談、歯磨き指導、むし歯予防意識を高める取組を行っています。
ブックスタート	絵本を媒体とした親子のコミュニケーションを図るため、9～10か月健診時に絵本の入ったブックスタートパックをプレゼントしています。
お話会「童っ子」	毎月第1土曜日に安芸市民図書館で開催しています。
保育料無償化	第2子以降の保育料を無償化。第1子の保育料も引下げ、国が定める上限額の半額に設定。副食費も無償化しています。
延長保育	0歳児からを対象に、7:30～19:30まで保育を実施しています。
病児・病後児保育	病中・病後で保育・学校に通所・通学できない子どもを「ベイビーキッズ」（尾木医院内）で受け入れています。
一時保育	出産、急病、看護、冠婚葬祭、一時的な仕事や保護者のリフレッシュなどの場合に子どもの保育を実施しています。

### 学童期

児童センター	乳幼児（保護者同伴）や放課後児童を受け入れています。
学童保育	保護者が就労等により昼間家庭にいない保育に欠ける児童（小学生）を市内の複数箇所を受け入れています。
障害児長期休暇支援事業	特別支援学校等に在学している障がいのある子どもの長期休暇の活動を支援しています。
放課後子ども教室（あきっ子クラブ）	週1～3回、小学校・公民館等で、地域の協力による体験をしながらの学習を実施しています。
医療費無償化	18歳の年度末までの医療費自己負担分（保険診療分）を無償化しています。



ブックスタート



放課後子ども教室（あきっ子クラブ）



### 子育て応援サイトを開設しています

赤ちゃんを授かる前から高校卒業までの安芸市の子育て支援策をわかりやすく、探しやすいようにまとめた子育て支援に特化したWebサイトです。LINE公式アカウントと連携したプッシュ型による子育て情報を配信しています。



# 子どもの未来が輝く

## まちへ



## 安芸市の教育政策

安芸市の教育政策の基本方針は「歴史と文化は地域の宝！未来へはばたく人を育むまちづくり」です。5か年ごとに教育振興基本計画を定め、地域の歴史・文化を大切にしながらも、時代に即した教育を行っています。

### ◇ 教育振興基本計画

- ・子どもたちの「生き抜く力」の育成
- ・子どもたちの安全確保と防災教育の推進
- ・学校・家庭・地域が一体となった教育の推進

### ■ 保育所から高校までが連携

保育所・小学校・中学校・高校間の連携を深めることによって、教育水準の向上・充実に向けて一貫した取組を推進し、基本的な生活習慣の確立など「学びの姿勢づくり」に力を入れています。

### ■ ICT教育

ICT環境整備では、児童生徒1人に1台のタブレット端末の整備や校内の通信ネットワーク整備、指導する教員の育成やICT支援の充実に取り組んでいます。

### ◇ 安芸市内の保育・教育機関

保育所	小学校	中学校
安芸おひさま保育所	下山小学校	市立安芸中学校
穴内保育所	伊尾木小学校	県立安芸中学校
赤野保育所	川北小学校	
井ノ口保育所	土居小学校	<b>高校</b>
土居保育所	井ノ口小学校	県立安芸高校
川北保育所	安芸第一小学校	
伊尾木保育所	穴内小学校	
矢ノ丸保育園(民営)	赤野小学校	



### ■ 地域学習(食育)

毎月15日は「じゃこの日」、17日は「なすの日」。「ちりめん井」や「なすのたたき」などの安芸市自慢の食材を使って給食を提供しています。また、地域の各団体の協力による出前授業や収穫体験なども行っています。「毎月15日、17日は何の日？」と聞くと「じゃこの日！なすの日！」と元気に答えが返ってくるほどです。



## 新たな中学校での学び

令和6（2024）年4月、2つの中学校が統合し、新たな「安芸市立安芸中学校」が誕生しました。新設された学校で、子どもたちが学び始めています。



### 主な取組

#### ■ 学力の向上と進路の保障

無料塾を開設し、一人ひとりの学力を高めます。受験対策も行います。

#### ■ 地域との連携

地域と共に学び、学びを深めることのできる教育活動を進めます。

#### ■ 情報活用能力の育成

なりたい自分になるため、必要な情報を集め「自分設計」をする力を養います。

#### ■ 部活動の充実

アスリートやアーティストによる指導の機会をつくります。



開放的なホール



ランチルーム



遺跡広場



軒丸瓦

### 瓜尻遺跡



瓜尻遺跡イメージキャラクター  
いがまるくん

安芸中学校の地下には、1300年前の古代の建物跡などが確認された「瓜尻遺跡」が残されています。発掘調査で発見された遺跡の一部を、「遺跡広場」として現地に復元表示しています。



屋内運動場



テラス



教室

## 生涯学習・芸術文化・市民スポーツ

学校教育だけでなく、生涯にわたる学習活動（生涯学習）の実施および支援をしています。市民の学習環境をつくるとともに、芸術文化活動、スポーツ活動など各団体とともに推進し住民同士の連携、地域への関心を深める活動に取り組んでいます。



誰もが学べる  
学習環境づくり



芸術文化の  
活動・支援



市民スポーツの  
開催・支援



横山 幾夫 市長



# 安芸市の 未来座談会

令和6（2024）年4月に開校した安芸市立安芸中学校の生徒会メンバーと、横山幾夫市長が「安芸市の未来」について語り合いました。

※座談会は2024年5月9日に実施しました。

## 新しい中学校と 安芸市の好きなおとこ

**市長** 4月に開校して、学校生活はどうですか。2校が統合し、生徒数は258人と多くなって設備も新しくなりました。

**小松さん** 校舎が今までよりすごく大きくて、びっくりしました。

**有澤さん** 吹奏楽部なんですけど、人数が増えて楽しいです。音楽室とか部室とか、全部きれいで最高です。

**西田さん** プロジェクターとか教室の設備が充実してて、受験生にとってはありがたいと思います。

**市長** 安芸市ができたのは昭和29（1954）年で、今年は市制施行70周年。8つの町村、昔の「八つ里」が合併してできました。市内の中学生が一番多かったのは昭和36年で、何人おったと思う？

**3人** えー、1000人？

**市長** いやいや、もっとはるかに多い。

**3人** もっと？ 2000人？

**市長** そう、2000人以上おって、中

学校は12校あった。

**3人** えー、すごい。

**市長** けど、今は小学生と中学生合わせて799人。安芸市だけじゃなく、人口減少が激しい市町村は「消滅可能性自治体」とされています。できるだけ人口を維持して、徐々にでも回復していきたいと思っています。皆さん、安芸市の好きなおところはありますか？



**小松さん** 海が好きです。

**有澤さん** どこを見ても自然があるっていうのはやっぱり落ち着くし、空気がきれいなところも好きです。

**西田さん** 食べ物が好きです。なすのたたきが大好きです。

**市長** おー、なすのたたき。さすがやね。私も食べ物が一番。山から海まで、全部がそろっちゃう。じゃあ、安芸市がこうなったらいいと思うことはあ

りますか？

**小松さん** やっぱ、遊ぶところがないので。イオンみたいに大きくなくても、ちょっとしたショッピングができる場所があれば。

**有澤さん** 近くに大きめの公園があったらいいと思います。

**西田さん** こうなってほしい、ということはあるけど…。学校も家も楽しいんで、いい感じです。

## 生まれ育った場所は特別 30年後の安芸市の姿は？

**小松さん** 市長はどんな安芸市にしたいと思いますか？

**市長** 40数年前に安芸市に帰ってきた時、家の周辺は子どもの声でいっぱいだったけど、それが徐々に少なくなって、今はほとんど声が聞かれない。だから、たくさん子どもの声が聞こえるような安芸市にするのが夢。そのためには何をしたらいいかっていうことを考えています。他に聞きたいことはありますか？

有澤 <sup>りん</sup> 凜音さん

小松 <sup>しおり</sup> 栞さん

西田 <sup>ゆずき</sup> 柚稀さん



## まちの将来 × 自分の将来

**有澤さん** どうして市長になったんですか？



**市長** さすが、鋭いな。市役所の課長だった時、施設の建て直しなどのいろんな課題があって、それを何とか解決せないかと思って目標を持ってやってきました。皆さんの夢や目標はありますか。

**小松さん** ちょっとざっくりしてるんですけど、人を幸せにする手助けができればいいと思います。若いうちは外に出てばりばり働いて、年齢的にも収入的にも安定してきたら、やっぱり一番安心できる安芸市に戻りたい。生まれ育った場所で過ごしたいです。

**有澤さん** 夢はまだあんまりはつきりしてないですけど、市外に出たとしても地元に戻ってきたいと思います。地元って特別じゃないですか。

**市長** 素晴らしい。

**西田さん** 医療系の仕事がしたいなって思っていて、私は県外がいいかもしれないです。関西とかに行ってみたい。

**市長** 一度外に出てみないと安芸市や高知のことを意識しないので、出ることも大事です。けど、なるだけ出っぱなしにならんように (笑)。

皆さんが大人になったら高速道路がつながるので、高知市には車で30分ぐらいで行けるようになる。これからの10年間で人口を増やすのはなかなか難しいので、30年後を見据えて人口が増えるように下地をこしらえています。子どもの声がたくさん聞こえるような安芸市になるように。皆さんが次の世代になってくるので、ぜひよろしくをお願いします。

**小松さん** 市長が30年後の安芸市を考えていることがすごくいいなと思います。私にもできることがあったらやってみたいと思います。

**有澤さん** 昔に比べたら人口も減っているけど、安芸市なりに良いところを増やして改善しようとしている話が聞

けてよかったです。30年後、安芸市がわいわいしよったら楽しそうです。これから、自分たちが安芸市に対してどういう取組ができるかを考える機会になりました。

**西田さん** 安芸市に住んで、正直不便だなと思うところもあったんですけど、今日は良いところを見つめ直す機会になりました。安芸市に生まれて、今暮らしていることを誇りに思って、安芸中としての取組も考えていければと思います。



**市長** 今日は皆さんの思いを聞くことができてよかったです。安芸市から出て帰ってきていただき、自分たちのできることで安芸市のこれからの協力してもらえるとうれしいです。今日は本当にありがとうございました。

# 安芸市の歩み

昭和29年

8月・市制施行(安芸町、赤野村、井ノ口村、畑山村、土居村、東川村、川北村、伊尾木村合併)

10月・市消防団発足

昭和30年

6月・安芸商工会議所設立

昭和32年

1月・安芸漁港着工

昭和33年

3月・栃ノ木小学校校舎完成

昭和34年

11月・市役所新庁舎完成

昭和36年

7月・市民賞、名誉市民賞の制定

昭和37年

3月・市民館完成

9月・伊尾木森林軌道の廃止

昭和38年

4月・し尿処理場完成、操業開始

10月・安芸市農業協同組合発足(市内10農協合併)

昭和39年

4月・安芸高校、春の選抜野球で甲子園出場

昭和40年

2月・阪神タイガース球団、市営球場でキャンプ開始

4月・安芸市天文科学館(プラネタリウム館、天体望遠鏡)開館

10月・清水ヶ丘中学校校舎完成

昭和41年

3月・安芸市総合運動場完成

昭和42年

4月・廃棄物処理施設「白馬清掃場」完成

昭和43年

4月・安芸市教育研究所開設

・矢ノ丸保育所完成

6月・市消防署庁舎完成

昭和44年

12月・安芸第一小学校校舎新築

昭和45年

2月・安芸市開発公社設立

3月・安芸市民会館完成

12月・畑山、東川地区、山村振興法の適用を受ける

昭和46年

4月・日曜市始まる

12月・市営火葬場完成

昭和47年

3月・土居小学校校舎完成

9月・安芸市体育館完成

昭和48年

1月・第1回新年走ろう会

3月・国民宿舎“あき”オープン

・井ノ口小学校校舎新築

10月・厚生会館完成

昭和49年

4月・土佐電鉄、後免～安芸線廃止

・染井保育所開設

6月・市民図書館開館

7月・県立総合安芸病院、芸陽院完成

11月・伊尾木川橋完成

昭和50年

3月・古井小・中学校校舎新築

・正藤小・中学校廃校

4月・安芸工業高校校舎新築

昭和51年

12月・第1回安芸タートルマラソン大会

3月・下山保育所完成

・安芸中学校校舎完成

4月・大井小学校廃校、東川小学校へ統合

昭和52年

3月・上尾川小・中学校校舎完成

昭和53年

2月・東川小・中学校校舎新築

6月・安芸市総合社会福祉センター完成

7月・安芸商工福祉会館完成

昭和54年

2月・伊尾木小学校校舎新築

8月・赤野小学校校舎新築

9月・土居保育所新築

昭和55年

3月・別役小・中学校廃校

4月・井ノ口保育所新築

5月・下山小学校校舎新築

昭和56年

3月・畑山小・中学校校舎新築

昭和57年

1月・市役所、増築庁舎完成

3月・伊尾木保育所新築

・穴内小学校校舎新築

5月・八ノ谷小学校廃校

9月・安芸市武道館完成

・安芸市立書道美術館完成

昭和58年

3月・穴内保育所新築

・奈比賀小学校校舎完成

昭和60年

3月・安芸市立歴史民俗資料館完成

昭和61年

7月・江ノ川上公園に「岩崎彌太郎先生」銅像完成

昭和62年

5月・働く婦人の家(現 女性の家)開館

・川北保育所新築

平成元年

4月・兵庫県龍野市(現たつの市)と姉妹都市提携

平成2年

11月・「童謡の里 安芸」シンボルマーク決定

平成4年

3月・安芸保育所完成

平成5年

2月・安芸市市民館新築

5月・廊中ふるさと館完成

平成6年

10月・安芸市多目的体育館「安芸ドーム」完成

平成7年

3月・一般廃棄物最終処分場完成

平成8年

3月・矢ノ丸保育所新築

4月・畑山小・中学校廃校

6月・温泉付き営農施設“こまどり”オープン

11月・野良時計が国の有形文化財登録制度に登録

2月・カリヨン時計完成

平成9年

8月・道の駅「大山」オープン

平成10年

10月・土佐あき農業協同組合発足

平成11年

3月・健康ふれあいセンター『元気館』完成



昭和30年ごろの市街地



安芸町役場

平成12年	・内原野陶芸館完成	平成25年	3月・安芸市消防防災センター完成
平成14年	3月・安芸市リサイクルプラザ完成	平成26年	3月・市内各所へ防災行政無線を整備 ・妙見山にメガソーラー施設「サンシャインパーク安芸」が完成
	7月・安芸市観光物産センターリニューアルオープン	平成27年	4月・内原野団地・第3次分譲開始
	4月・安芸工業高校が安芸桜ヶ丘高校へ校名変更	1月・県内最大級大規模太陽光発電所「こうち安芸メガソーラー発電所」開所	
	7月・土佐くろしお鉄道「ごめん・なはり線」開通 ・元気バス運行開始	平成28年	2月・一般国道55号大山道路開通
平成16年	1月・安芸市緊急財政健全化計画(アクションプラン)策定	1月・学校給食センターが本格稼働(市内すべての市立小中学校で完全給食開始)	
	2月・市汚泥再生処理センター完成	6月・関西大学と地域包括連携協定を締結	
平成17年	5月・内原野の陽和工房登窯が国の登録有形文化財に登録	10月・新火葬場「杜の聖苑(もりのせいえん)」完成	
	3月・内原野団地・第1次分譲開始 ・下山保育所閉園	平成29年	5月・子育て世代包括支援センターを開設
	6月・森澤家住宅が国の登録有形文化財に登録	6月・安芸おひさま保育所開所	
	10月・県立安芸広域公園「こどもひろば(なす公園)」が内原野に完成	12月・安芸市ファミリー・サポート・センターみるきい開設	
平成18年	3月・安芸広域ごみ処理施設(安芸広域メルトセンター)竣工	平成30年	3月・高知市とれんけいこうち広域都市圏の連携協約を締結
	4月・矢ノ丸保育所、乳児保育所、市内2施設で保育所民営化開始	5月・岩崎家に縁のある安芸市・富里市・台東区・雫石町の4市区町が広域文化観光協議会を発足	
平成19年	12月・五藤家安芸屋敷が国の登録有形文化財に指定	平成31年	1月・市体育館内にトレーニング室開設
平成20年	5月・安芸市・室戸市・徳島県阿南市で「AMA地域連携協定」締結	2月・伊尾木洞観光案内所完成	
	8月・内原野団地・第2次分譲開始 ・第1回全国商い甲子園開催	令和元年	9月・早起きソフトボール大会閉幕
平成21年	2月・第1回高知県小中学生選抜書展開催 ・三菱商事と協働の森パートナーズ協定締結	令和2年	3月・彌太郎ころごし社中(安芸観光情報センター)リニューアルオープン
	3月・東京海上日動火災と協働の森パートナーズ協定締結	令和3年	3月・ごめん・なはり線「あき総合病院前駅」開業
	9月・財政健全化法による「早期健全化団体」に指定される	令和4年	3月・「なすのたたき」が文化庁「100年フード」に認定
平成22年	1月・NHK大河ドラマ「龍馬伝」放送開始 ・「土佐・龍馬であい博」サテライト館「安芸・岩崎彌太郎 ころごし社中」オープン	令和5年	9月・阪神タイガース、高知県、安芸市の三者による連携協力に関する協定締結
	4月・岩崎彌太郎生家と土居畠中家住宅が国の登録有形文化財に登録	4月・県立安芸中学校・高等学校と県立安芸桜ヶ丘高等学校が県立安芸中学校・高等学校へ統合	
	9月・自治体財政健全化法による「早期健全化団体」の指定解除	平成6年	6月・パートナーシップ登録制度導入
平成24年	4月・自主防災組織率100%を達成	9月・市役所新庁舎落成	
	7月・土居廓中地区が国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定	1月・市役所新庁舎業務開始	
		3月・統合中学校(校名「安芸中学校」)完成 ・安芸・清水ヶ丘中学校閉校	
		4月・安芸中学校開校	



シルス干し作業 (昭和40年代後半)



安芸駅列車出発式 (平成14年)



阪神タイガースの優勝に沸く市民 (平成15年)

# AKI

いいなあ安芸



いいなあ安芸

2024年 安芸市勢要覧

市制施行70周年記念

発行日 令和6年8月1日  
発行 安芸市  
高知県安芸市土居82番地1  
電話 0887-34-1111  
企画・編集 安芸市総務課